

# 水平リサイクルによる化粧品ボトルの再生・商品化を実現

## 花王

花王は、2021年より取り組んできた化粧品ボトル容器の水平リサイクルの取り組みにて、このほど、使用済み化粧品プラスチックボトルからなるケミカルリサイクルPET（ポリエチレンテレフタレート）素材を容器の一部に使用し、商品化を実現した。5月30日より順次、イオン・イオンスタイル146店にて、数量限定で販売している。

使用済み化粧用品容器を再び化粧品容器に生まれ変わらせる水平リサイクルに、JEPPLA（高尾正樹社長）が保有する独自のケミカルリサイクル技術を活用。今回は、2022年に顧客から回収した使用済み化粧品プラスチックボトルを水平リサイクルし、花王グループのカネボウ化粧品が展開する「T W A N Y（トワニー）」の化粧水つけかえボトル容器の一部に一般的に、着

きや表情から、実在のモデルのように見えることが特徴である。そのリアルさから、従来のモデルに代わる新たなマーケティングとして注目されている。企業としても、よりトレンドやコーデインポートの提案がしやすくなりブランドイメージの強化につながるほか



色や加飾が施された化粧品ボトル容器は、包装容器のPET素材へ再生することは難しいとされてきたが、花王はJEPPLAと協働し、同社が保有する独自のケミカルリサイクル技術を活用することで、その表現に向けて取り組んできた。

ANのグループ会社であるベトリファインテック（ロジック伊賀大悟社長）が使用済みペットボトルを用いて製造したケミカルリサイクルPET（ポリエチレンテレフタレート）素材を、「T W A N Y」のボトル容器に採用。東エリアのイオン直営店（レフィル）のボトル容器の素材の一部として使用し、パーズンPET等品質の美しい容器が使用済み化粧品プラスチックボトルを回収。回収した使用済み化粧品プラスチックボトルを用いた。

## ライオン CO<sub>2</sub>からの油脂開発技術を有するCO<sub>2</sub>資源化研究所へ出資

ライオンは、バイオ技術の力で新しい生活様式を提案し、地球温暖化にストップをかけることを目指しているCO<sub>2</sub>資源化研究所（本社：東京都港区台場、湯川英明社長、UCDI）の第三者割当増資を引き受けることを決定し、出資を行った。

UCDIは、2015年8月に設立された革新的なバイオ技術を駆使したCO<sub>2</sub>・水素を原料とするヒト用タンパク質、バイオ燃料、化学品等の研究、開発、製造を行っている企業で、保有する独自のUCDI水素菌を活用し、温室効果ガス二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）と水

## 記者の窓

大手ファッションブランドしまむらが、デジタルトランスフォーメーションの一環としてAIによって生成したファッションモデル「Luna（ルナ）」を起用したことが話題になっている。

## AIモデル

「Luna（ルナ）」は最新のAI技術により開発されたバーチャルモデルで、自然な動きの強化につながるほか、モデルの台頭の影響として、実際のモデルが仕事を失う可能性や、完璧に作り上げられた姿での訴求により自然な美の影響なども懸念される。

同社は、「サステナブルな地球環境への取り組み」をサステナビリティ最重要課題として掲げ、経営戦略と統合させることで、社会への貢献とさらなる事業成長を目指している。

現在、洗剤、柔軟剤、ハンドソープなど、世界中の日用品に使われている界面活性剤の多くは、パームヤシから採取された油脂（パーム油）を原料に作られている。パーム油は主に食料用途で使われているため、今後想定される世界的な人口増加に伴い、大規模な需要の拡大が見込まれている。しかしながら、パームヤシから持続可能な方法で油脂を生産するには限界があることから、パーム油を代替する原料、生産技術の開発が

求められている。UCDIは、2015年8月に設立された革新的なバイオ技術を駆使したCO<sub>2</sub>・水素を原料とするヒト用タンパク質、バイオ燃料、化学品等の研究、開発、製造を行っている企業で、保有する独自のUCDI水素菌を活用し、温室効果ガス二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）と水素（H<sub>2</sub>）から様々な物質の商業生産を目指している。中でも、同社はCO<sub>2</sub>からパーム油代替可能な油脂化学製品を開発することを、社会的意義の高い研究テーマの一つと位置づけている。そこで今回、同社がより深く連携し、温室効果ガス二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）から生産した原料を、洗剤、柔軟剤、ハンドソープをはじめとする様々な製品に活用することを目的に、UCDIに出資することを決断した。